

(2) 貸借対照表

平成19年 3月31日

(単位：百万円)

資産の部

科目	平成18年度末	平成17年度末	前年度比
土地	13,305	13,261	44
建物	28,987	27,854	1,133
構築物	885	981	△ 96
教育研究用機器備品	4,536	4,582	△ 46
その他の機器備品	163	154	9
図書	5,150	4,975	175
車両	9	12	△ 3
建設仮勘定	1,132	2,072	△ 940
有形固定資産計	54,167	53,891	276
施設利用権・特許権	52	35	17
有価証券	4	4	0
出資金・保証金	8	8	0
引当特定資産	15,319	15,169	150
その他の固定資産計	15,383	15,216	167
現金預金	11,423	8,850	2,573
未収入金	2,172	2,263	△ 91
有価証券	1,598	1,000	598
前払金	48	62	△ 14
流動資産計	15,241	12,175	3,066
資産の部合計	84,791	81,282	3,509

負債・基本金・消費収支差額の部

科目	平成18年度末	平成17年度末	前年度比
長期借入金	2,383	2,757	△ 374
退職給与引当金	2,912	3,004	△ 92
固定負債計	5,295	5,761	△ 466
短期借入金	555	555	0
未払金	1,576	290	1,286
前受金	4,197	3,818	379
預り金	721	763	△ 42
流動負債計	7,049	5,426	1,623
負債の部合計	12,344	11,187	1,157
第1号基本金	80,051	77,628	2,423
第3号基本金	3,500	3,400	100
第4号基本金	1,498	1,450	48
基本金の部合計	85,049	82,478	2,571
消費収支差額の部合計	△ 12,602	△ 12,383	△ 219
負債・基本金・消費収支差額の部合計	84,791	81,282	3,509

自己資金	72,447	70,095	2,352
総資金	84,791	81,282	3,509
減価償却額の累計額	26,990	25,106	1,884

※「自己資金」＝基本金＋消費収支差額

※「総資金」＝負債＋基本金＋消費収支差額

※端数調整のため財産目録および他の計算書と金額の異なる科目があります。

★貸借対照表ポイント

期末における法人全体の財産状態を前年度末と対比して表示しました。

総資産は、八事新1号館の取得や流動資金の増加により3,509百万円増加し、84,791百万円となりました。

自己資金構成比率（自己資金／総資金）は、帰属収支差額を2,352百万円確保したが、前年度比0.8ポイント減少し85.4%となりました。

流動比率（流動資産／流動負債）は、一時的な未払退職金を補正した場合、実質15.6ポイントアップし、240.0%となります。

18年度は年度末が休日であったため、一時的に退職金が1,183百万円未払いとなりました。

このため、年度末に流動資産と負債が一時的に増加しています。

【有形固定資産】

八事新1号館の完成などにより建物は1,133百万円増加し、建設仮勘定は940百万円減少しました。

【その他の固定資産】

特定資産の微増により167百万円増加しました。

【流動資産】

翌期の再開発・MS-15推進など多様な事業計画に対応するため、現金預金が2,573百万円増加しました。

【固定・流動負債】

借入金は計画どおりに返済が進んでおり、374百万円減少しました。

18年度は年度末が休日であったため、一時的に退職金が未払いとなり未払金が増加しました。

【基本金】

教育・研究や施設設備の充実のために取得した固定資産の第1号基本金、学術研究基金の第3号基本金への組入れにより2,571百万円増加しました。

【消費収支差額の部】

長期計画に基づく再開発事業が一因となり、消費支出超過の状態です。

※注記事項は消費収支計算書の末尾に記載しました。

